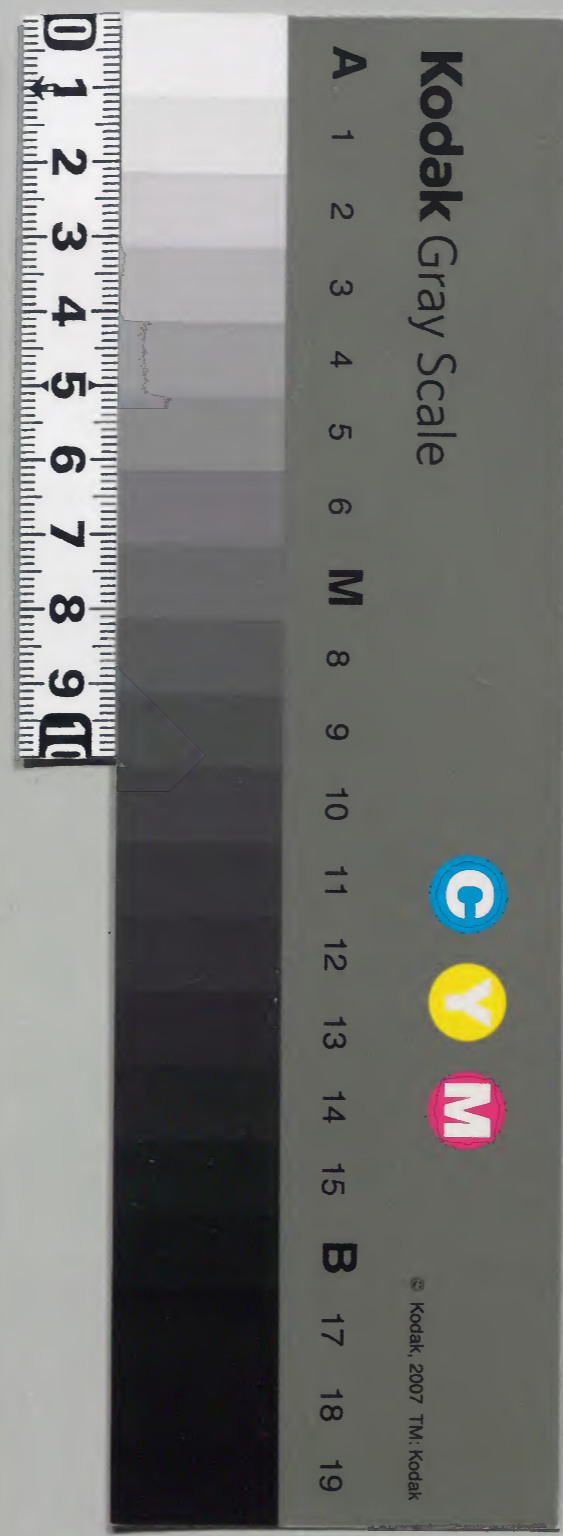


小袖首我

和書門類			
二	一	八	二七七六九號
五	二	八	
冊	架	函	

庫	文	閣	內
函	三	七	和
架	五	七	書
	冊	九	
		號	

內閣文庫	
番號	和 27769
冊數	25 (15)
函號	204 18



時宗も下さまり人か
 母上は右をえ何時宗
 とはたら事そまううらみたの申ふとさびひひ
 とりふ者扱ひも糸の小二郎へ名宗すあら
 このせうへまうの法師のあるまはる名宗へ
 あまさら事ありおさかくてまことまうとて
 まうもの一人まうひー城らへのかぶい
 とたせんうあま刺あうきんやう一箱扱へ
 のがせきり人をかひあいをそむきまこと孫の
 おをあげ下りけの水糸とあはれ一扱やよ親見
 すけ太郎と記ひひとかのうらとまう



くふきやうのくんとせうりあて僧そうじやうねじやくとのん
路小我約の開白らせ律約の内参へ法師とじ
う路り民安をきくまもいやくちんてんてん
ぶとぬがううけ赤白の二てんううんこんぬ
ふのぬうそあもひげあへひうの母乃あま
るせうとくが秘をだのあいらう又れあま
お骨ほねをけそのおいらまもせせし母のあま
めひげ城そりまうううううううううう
あつ城律約のまよあめて法師城ひうへぬん
さうくあひらた安よた人れはてんちくの

事うよよせんあうとあてらとり一人あま
またあうあうせんあうあまとらまうとあ
路ひ二人のわうとまうけうせ路ああふうなと
いせんあうあうがかとほううあまうううん
とそあけのあまらせんあん福えう七月十
日にまきよのた人お事とあううあまなく乃
人をおちがいのけよそまううううう物と馬き
れうよるけうけうわうをさうて引て入又
せんううあまあまあけあまあまあまのう
はあてくあまあまうう二まのひがん卯月の八

日十月十日一月一年うらひつゝの六つ日に
 さいさいふらふ今日人をいふもふらふりつゝ
 有きと大きふらふらせ給ひをまはれ兄弟兼りり
 それをたがふらぬ事そ親おやをよこしてうら
 けうけいむやうかふるまふこのやとと忍せん
 とてちいせんあうのゆらびとまよへぬらん
 うらちとを母のふまへゆらんしてあふあさ
 まりのりたやらのこのあんなもあつとくせん
 さいのあむもあつとくみらんのあんなもあつ
 くと三世あつとくふらははまの志んうあやと

かり子のまゆへううそわらひまのあんなうま
 とびまれ又のらびどはさうやさん いはま
 のあんなあ母となり泣いてその城あそわ
 かやうりううあけうせ給ひ兄弟兼り
 とてちいせんあうのゆらびとまよへぬらん
 ありうらやあれをうらうよ子人まらうてあ
 そりんとて家のはらうこの門をまうら
 お九百九十九人切ら今一人うすしてせん
 けうけうをそあふらうのううのあうら
 ちのけりありあううあうあうあうあ

うあうとわけてそねうけりきんしやうけ
るやういふよりうもんうめをあらう致へぬま
仏にうらとちりつさやいふめをかりかんの
邦よいらせんむと同一ていふめ引よらんせん
せせしめうめをせいのう物るまけりん致三香
さるよ我八十三年逸八百劫きうかう必生あふ國逸成
仏といるある母のふ女もこのういせんあう
よるまき終ひをそ又子れり貴物の命とてまけ
てまわり終ひあう九百九十九あすけ今ひと
片だらましてせんあうううるそあり終ひあう

うめの發とびらううふまやうなるここのうめ
の發りーちやうもんーけのうらやまうね也
とちあふらんちううあまうさううううりて
く終てまうせんおいらとらふまうううう七
片の子とまうくわうあたまはあけなり七片の
子とまうせんふあせん事とあうーんとるへ
ううまうんううあまう八あうう必生あふ國逸成
仏とこれあういあまうあう致へぬまは必仏
ふるうとちりつさやいふめをかりかんの
とあうらんちやうもんーけのうらやまうね也

九

九

ぼふおきくのもよきりかどわたりともうらぶ
 うらぶよおきくのもよきりかどわたりともうらぶ
 まよたよひろびろくろりあお解りきりあ
 ていこのおきくのもよきりかどわたりともうらぶ
 とうとうけまやうくのもよきりかどわたりともうらぶ
 とくくてもあひ見きりかどわたりともうらぶ
 地物のちぢひおあよひんとお解りかどわたりともうらぶ
 うらの若とさうくもあはれんていひいあひ
 ひとあはれんていひいあはれんていひいあひ
 せれまのたははるあはれんていひいあひ



さうさゆらんしといふさげうふにせんとの
終ひてころうをうてなげ終ふ我給ふといひ
まゝに大和國とつやまことつらぬとあまじり成
のころぬあまこころとつらとつらとつらとつら
となつてあんなのむづめふおくるとあまこ
そわくあ子をたふも親のほらひあいのすけ
んとつら終ふまゝとつらとつらとつらとつら
しそ成とまじとつらとつらとつらとつらとつら
あくまあんとつらとつらとつらとつらとつら
おまゝとつらとつらとつらとつらとつらとつら

さうさゆらんしといふさげうふにせんとの
終ひてころうをうてなげ終ふ我給ふといひ
まゝに大和國とつやまことつらぬとあまじり成
のころぬあまこころとつらとつらとつらとつら
となつてあんなのむづめふおくるとあまこ
そわくあ子をたふも親のほらひあいのすけ
んとつら終ふまゝとつらとつらとつらとつら
しそ成とまじとつらとつらとつらとつらとつら
あくまあんとつらとつらとつらとつらとつら
おまゝとつらとつらとつらとつらとつらとつら

兼とうり念仏おこころもさうやうどめさうと
 みーてら又父のうめあはがぶらうて又母
 乃は新^{こひ}福とせしむるをさうとせしむるを
 めりせり身るまは 中めらあ人さふしとあ
 らまをけうんとう又をあまの法おけうとむ
 そあうしき 大らとらうしとせしむるを
 の法名をばせんらうち林と申大らもたをま
 うりまて親のふきう若のふびまこし
 小舞とかりは身よとつとぬらとがかりての
 成めんとうやとさうるひひましとらうなく

しては法をんいふひん乃のりさりあまなり
 的日之助成のうのく法あわらるまよあり
 く伴者乃あうしとてしうらぬおえりた
 とうけとかりに時ひひを法供中ておへ
 きふかりむのくひひを庵あーたふ
 所のなりまきあもあしりもひあーを
 うらまは 法あふきうのゆらせせとみ
 らんのあうとらうせんわまきよのるうと親
 小あんなまきよのあ時あてとめたりま
 成りふと申よ又阿漢とのふり三法の奉えら

ありきゆめとてさういふまゝに傳へて今生り
 一まの母ふふとせよとのまてりへのかり
 志と記すまのりさしきまをめてまうりくさ
 るのさるしちいりてありし一むふしをよそ
 くなりと申す男よたりてさう一人の母
 上あふそひまのりせんと思ひあふあんふさ
 かしは里男一歳さうさうふよりあうさふ
 けうとの流人を母一人の流とくし流おり足
 中るもさるしあうけたの流事やたさひさけ
 うのゆりさるまもくし流るもやうせ流りね

ちふあへよあまを流人あはまをさうし流
 中て女がうさう流し流ちて母一人と流流
 母一人てまうりさう流し流母よそあひ乃
 志さうしとさ門をわけあふりたしとひ
 う人はく流流なりとさうさうよあくさうさ
 にはもやねそ母やの身りてわり子を流あふ
 流しと思ふるさあまをあら流流りあゆ
 へ今まてふさうあり流りさうふよりしとさ
 うさうさうとゆりさなりとの流ひて流あひ
 せひ流人の流ささう人の流たりさうす

かり今も又うまきる兒おる兒けまけ祐成も
 とまよふりあひの縁とていふせまいあ人可
 他おるるわの女がうららあめくたか時宗
 の他あさんゆるうせ給ふ事しよとてうめま
 わひ他うらうまともあうらうら母上うらうら
 とりわけうせ給ひて祐成よとて給ふ祐成と
 時宗へと兒む縁とて十郎あをてあめあうら
 のまきくも世母上は流しとてとてうはまお
 うらまきくはうらたよのむいへけまけ男おるうら
 まらすけやうりのめとのへあてとまらんとて

そがさまきけり母上祐成の盡とて上うせ給ひ
 盡とひうらまふやらんめあて又に世とらぬ
 まひの上まど一梅子うへうらうらふせん
 と給まけし時宗あま母上の内おうて森中う
 なまらふたもあまこととていふとて思ひけまけ
 うらうらうらりのまひうらうらむがまきくそあ
 たりまきうらまやあまあらののをまきまきうら
 了昔と今よあまあまうらま 昔と今よあま
 ぢわとあまあまうらうらうらあまあまあ
 めらうらまてまひとてうらうらてまひとてうら



母上はくくど世流どてき小くちく小も
 母とらぬ森の上をよそわりけりそや 同
 びまひと河津どのえろとえにうんとだふえ
 思ひるむりくもうきりおらるるき世流らくる
 けしむまよそり 流ととあぬさうがふと時
 家よさう流ととれひひぬさうりき流とと三夜い
 ころきかさんとせり時母上世流どてあり
 さうつさ城ひ入よさうりきさうりきとせん
 との流ひてうらわや乃流とそそとらういさう
 子時家流りう小社を祀さういるこそそとぬさ

とあつたよきよきとせあまらる小袖あつたよ
みくらしきり人たれぬ女やうらうへ事とせ
い母うんほりんとてふとこのきこるこもて
と女やうらうへもかきふまゝそれいさゝか
と終きまはれとそれあり母のほよみあ
せあくるこくう人びとそでとれゆりく
ゆとゆらんせられけりぢやゆりかよを一
かひとあがりて物ものへあふすやぎやも
ハすぎやよひのは十部よりあつて
なりたけ成るは縁ふきとてうらうへそでと

あつたよふりすとのこころりよそと
いみぢきよふりちらるやう思ふやう
あ者あつたよきとあつてあまの女うらうのみ
おもとせけりいと思ひあふむんるや
とまごころきりんぎとほるるまか
に思ひあがるよとあんなあせりうら
わらあつたよもいあやあをまこら小袖
あうねあをあ小袖とてうらうへあけ
あつたえうのやへのあまはるとやま
りてとせぬそあまごころあつたあ

一
二

ニのこやのあ孫あはるどやもこりてえさ女
ねその孫あはるすくぐわむまははあるうわ
れ女がうらるどやもこりてたがねそやす
すぐとこがうらたりせはんごうのみせ
とこうあはるうらうらぬとこあいらんよ
うまーわらるるよあやのみくじ子たよは一
ぞくうらのものこえおんこきううやじごん
さよ 母う入海とこあうら小町家亥年乃あ
月はニのこやのあひびがくいふらとこそて
りーえさるう孫あはるてはそまもあねあはと

らせねそうんごうのみあまはとこあうらあ
とこひあまよりのとこせうらふ神なり又
まのこうらあはるはとこらのたごのあ
うらもひこれりーえさうらう孫あはるてはそ
もあはあはとこせねそあまよりのとこあ
ひうまなりのそのらる孫うらわいそよす
りーあはよーうらよ一あ平のは海やるあ
さよそとこ孫あはるふ孫成時ひよあはく
あまのら事なまはとこあはとこあはよ
こよひうらとこまの孫あはる一孫成あはあはら

あ

たりも母上のきん——まじりなきまじりのさき
 せさうごぼろちりまめさんす——おやうふとく
 ぬきふとよりくのんりこも——さふまのひ
 くの海なり 祐成ちやくぬま海——中を我
 君のびとびう——のんれおひ日本國は徳の
 名刺のりともろちめさきん——あなり入敷
 にまじりおあげまくのひとけとくぬ侍
 があそんよ玄物ありと——られ中きんめい
 のちれうこ——よあんと成る——お入まじり
 と今一交まじりせんう——あまてひととんも

けりりりさ海くにたけし海成中——あおと
 まじりまあまきとさふあを思りまけまけか
 みのこめと思ひやだてまじりそのとりり
 すけなりれうこ——あくまじり
 りふりてく又もあたまをたどぐる海まの
 かのこのうらうら——とまじりまじり
 とれひよそめくまじり
 りくぬちまおろともあまのうけあま
 このこらりあしたくわくせん



十の

十の

かやうふ二あゆのうこをうこまやうあゆのるに
 をへこま列もせて打のり門外さしてうく
 おう時ふえむすゑまで馬ひりせま川く
 と二階よはくそあうのうこや母上敷の女
 かわうらうとひさぐ中門ふ立かあきくみ
 終人女わうらう兄弟まがらひたれりるうらのまい
 きのたうさよ祐成ハわふるまはうそらま
 うと思ひあふせくよのうさうつらま
 屋すくも有やうんきもあろくせんあうら
 やめぬいとく祿をうられそのなまはうそらま

十の

十の

らめと思ひあふあふう伏ふとせらがとふ月日
 にてしとまけらやふんりるえらうく梅こ
 るなりあらしうわうい物とせうしうこ
 くまこととせなきりそ入もまこと今一
 うらとだふを物りひまじりううはうま
 かりなきいとけなきいふじせびひひかり
 きふまこととせなきりゆこととせのそのへ乃
 うといそりあて城見かくとせりまる一皆
 しまゝととの路ひては縁のともうろふ入路よ
 毛城ふいあいの別とせなき思ひあられぬう



兄弟の人のこゝまよとらやめく打直ふまゝりこ河
 につきおきりおしりあかさままゝら祐成は流
 してあーぎやび河のか直よあま家事へあ
 親の款よあらんこめに兄弟りまゝらなとふ
 あまらうあまへこをすまておあまるまみ也
 是時ふ取り相多十郎あまらり給振乃控現の
 ゆゝいとあらあめさまぬ也昔天ちくまやう志
 國の有主とらまんとらまらまらゆる松小二
 人の娘をあまらま守あはれ三所のは時あれ
 きさうにやうまゝよあら世流らめくまゝにを

そまあお小昔り今よあまにけりまのりの中
 頼あうこてかりまらるこしや有財さうにの
 ま志らや官人らとらて二人の娘をあーあ
 のせそせうの漆へ下らまらまのうが松に
 他務温三門為の方へあうらる人とまら
 へあらぬの君の終るまららりや二人の
 娘をあーあにせそせうの漆へ下らまの本
 けうや松よ他務温三門為乃方へ風よゆる
 けさるあ守先世に君果振のせうまらまら
 けらあや温三門為らまららて日本結津

ぬり門の因めしうさ入へより後浦人をも
 きてよりおまきやとておとやとりてきてあま
 りさきゆうらう成姫なりひめの一人あつす二人と
 唱なまあふたきておまきまは浦人まをもとまき東
 海今るとあげりりきりまら出流んして乞の温
 まの橋うしとひ後人の目の中あまの橋りづのお
 あらうさうれと申まうらうお台おまうまうまき物
 うまきまもまうらうらんとておまよりまよらむ
 後のちおまきまもまうらうらんとておまよりまよらむ
 ていとうのよさをひひのめあうま

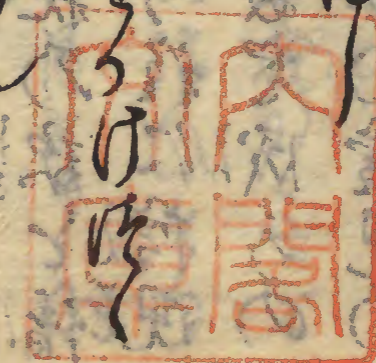


海をよたしふようまてひひへ玉よあどる
 寸海りまの菊の露とぬく足揚柳乃枝より
 せいのちうそそりひもやと思ひ知まらり
 まうり終けりやうハあまをりひのた孫と
 して世とのうまんとおの終ひてけ成りこと
 そりおと日中秋津嶋とあゆむ終ひたり
 あひこの甲やうさひこせん三年三月とちふ
 川の山小上てりらの橙げん現とあつりまて流
 生とさふと終つりいりうとの甲やうさひ
 乙三年三月とちに鞍こ根山かり上て鞍か孫の橙

現とあつりまて流せとふいと終つりか行
 まんをんあつた成法津とけせたふはや三
 法の年よりと物と思てせ終ひ也いんや我
 我兄い弟もふはや三法の年よりも親乃款と積
 終今又款よりわりんるは河と海り終に橙現
 乃表あもあつたせ終よ海り終れぬ成あ
 まハあが家也ま上は河ハ川鞍根の橙現乃
 まうらうまていへし海りる家あひへま一首川
 ら終てお通里あまや十郎あまうりけり
 甲をまてあつた終あうやハ川鞍孫の橙現の

伊東と共今義くひ人とも成法して手あし
侍立ふぬとや一押る足祐成の亦ふかくり

まらりいりあうくぞふのじまりこ河



どうやうふ二首の亦とよこし海ともわめく
打ねよ年暮あけり位まり
後ふ兄弟代り事いさよんもたうりり

